

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0471200683		
法人名	有限会社 みんなの家		
事業所名	グループホーム みんなの家		
所在地	宮城県登米市中田町宝江新井田字並柳前57		
自己評価作成日	平成23年	5月27日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>昨年度、グループホームの理念を作りました。「共に泣き、共に笑い、共に学び、そして共にいきる」。職員と利用者さん、利用者さん同士、そして地域の方々とも「共に」です。お互い世話する側される側にはならず共に歩みます。地域の方々には施設見学会や介護教室を積極的に開催し、認知症の方々の応援団になって頂きました。ますます開かれた施設作りを目指していきたくと思っています。</p>

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://yell.hello-net.info/kouhyou/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成23年	6月10日	

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>開所6年目を迎えたホームは、住民が気楽に訪れる場になっている。「夏祭り」には400人を超える住民が参加し、「地域の祭りとして定着した」と区長から高い評価を得た。震災時、公民館に避難した住民に入浴を提供し、多い時には60名近くの人々がホームを出入りしたが、そのことで入居者が不穏になることはないという。これは職員との強い信頼関係が入居者の安心・安定をもたらしていることの表れとみえる。「他所の良いところを即実行するのが良いところ」と家族の声、「普通に生活するための支援をし、入居者の笑顔が見られたら満足です」と職員は言う。日々、向上心を持ちながら理念の「共に生きる」を献身的に実践している。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 **グループホームみんなの家**)「ユニット名 _____」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「共に泣き共に笑い共に学び、そして共に生きる」をグループホームの理念にあげ、常に一緒に過ごすことに努めている。	理念のほかに各職員は「目標カード」を書いている。目標の内容、それをどのように達成するか、その期間、半年毎の自己評価も行う。理念を読み合わせて、各自の行動に照らすことを毎週行なっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りや子供会行事では地域の多くの人たちに来てもらい交流している。	地域運動会や幼稚園発表会に招待される。地域住民から慰問ボランティアを紹介されたり、野菜の差し入れがあったりと近所付き合いも盛んである。住民の多くが参加するホームの夏祭りは、地区の行事になっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学会、介護教室、認知症サポーター養成講座など開催、多くの人たちに介護に対する理解を深めてもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催、事業所からの事業報告や行政からの情報提供、地域の方々からは質問や要望など話し合われている。	運営や入居者の状況を報告し、メンバーから意見をもらっている。夏祭りについて入居者が疲れないように配慮した時間の再検討が提案される等、双方向的な会議になっている。市職員、包括支援センターの出席もある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に登米市の長寿介護課の担当者が参加、お互いの意見交換している。	市のモデル事業や認知症サポーター養成講座の講師等を務めている。市との連携で、地域の高齢者福祉の拠点を担っている。「家族介護教室」を開き、認知症への理解を進める等の地域貢献もしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	認知症の方への接し方について常に話し合いをし一人で抱え込まないように配慮している。日中施錠などは全くとせず声がけや見守り強化で対応している。	「したいことをしてもらおう」「どこまでも寄り添う」ことを原点に対応することで、拘束のないケアができています。入居者は自分の仕事をつくったり、手伝ったり、趣味に没頭したりと忙しい。帰宅願望のある入居者はいない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内にポスターを貼ったり、全体会議などで勉強会にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	1名成年後見制度活用。その他に当法人のケアマネが後見人になっていることもあり勉強の機会を与えてもらっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用申し込みの際、本人家族の方に見学してもらい体験利用なども進めている。利用者、施設側とも納得した上での利用してもらうようにしている。契約の際はきちんと説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	第三者委員を委嘱しているし、苦情窓口も設けている。運営推進会議に家族の方が多く参加、意見交換の場になっている。	家族の来訪時には入居者の様子を報告しながら、要望・意見などを聞きだすように努めている。毎月発行する「お便り」には手書きの手紙を添えている。衣替えの希望に応え、業者を呼んでプティックを開いたこともある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回以上のスタッフ会議を設けている。気軽に意見が言える雰囲気づくりをしており活発な懐疑となっている。また年2回の管理者との目標カードについて面談の機会を設けている。	スタッフ会議の記録を見ると、ケアのことだけでなく、職員が苦手をカバーする勤務体制を提案する等、互いに資質の向上を目指して学び合っている様子がうかがえる。行事等は職員が運営を担っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は朝夕食事を一緒に摂り、多くの話題提供したり家庭的な雰囲気づくりをしてくれている。一緒に片付けをしながら職員とも気軽に話をしてくれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会参加の推奨はもとより、資格取得にも助成してくれ、また取得後には給料に反映してくれている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交換研修を積極的に行っている。見学や他施設開催の研修会にも参加してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	センター方式アセスメントシートを使い本人をより多く知り、寄り添うケアに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアマネージャーからの情報、又は面談しながら解決策を相談する		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	小規模多機能施設の特徴を生かし、デイサービス、ショートステイなどで早急に対応。なじみの関係づくりをして不安なく利用してもらうようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に介護する側される側にならず、「共に生きる」を理念にあげ家庭的な雰囲気のもと暮らしを支えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には家族との時間を大切にもらうために、部屋でゆっくり過ごしてもらう。母の日にはいつも世話になっている娘さんやお嫁さんあてにメッセージカードを送った。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	併設のデイサービスに友達や知り合いが来たときは交流できるように支援している。また美容院やお店に出掛けていくこともある。	「本人から不満を聞いたことがない」「面会のたびに元気になっている」「実家において家(ホーム)に帰ると言う」など家族からの声がある。入居者にとってホームが居心地良く、馴染んだ自宅になっていることが分かる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居心地のいいテーブル配置など気配りしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	死亡した方の1周忌に伺ったり、みんなの家通信を送ったり継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来るだけ多く接することでその人らしい暮らしを把握している。	1対1の入浴時や居室を信頼関係づくりの良い機会と捉え聞くことが多い。「ひとのやっていることは自分もしたい」「花が好き」等聞き出したことを形にする。それが重なり、やがて自分の思いを遠慮なく言えるようになっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式アセスメントシート活用し、昔の生活なじみのものの話題づくりにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来ること、出来ないこと。解る子と解らないことの把握。日々日常生活における状態変化は業務日誌などで情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に1回のモニタリングをスタッフ全員で行っている。	ミキサー食を普通食にしたら食欲が増進したり、トイレ排泄ができるのでオムツをリハビリパンツにしてはどうか等、直接ケアする職員から計画見直しの提案をされることが多い。関係者全員の意見を検討し活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録は生活パターンシートを使い、排泄、食事、水分量の確認を行っている。特記事項には気づきを書くようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急入所や被災者受け入れ、またデイサービス利用者の方の延長利用など柔軟にかつ臨機応変に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が入っているし、民生委員、区長さんの参加もある。地域の防災訓練や健康教室などにも参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族が希望するかかりつけ医に受診できるようにしている、家族が付き添った場合は受診結果の申し送りをきちんと行うようにしている。	すべての入居者が希望する医療機関で受診できている。受診結果は「ケース記録」に記入し職員間で情報を共有し、変化があれば家族に電話連絡をしている。毎週、訪問看護師が訪れ、相談もできる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週水曜日、訪問看護で体調の変化や気づきを相談アドバイスをもらっている。併設の看護師には緊急時対応してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院によるダメージを防ぐため毎日の見舞いで安心感を持ってもらい治療してもらうようにしている。医療行為がなくなった時点で早めに退院してもらうようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今年1月に一人の方が亡くなった。終末は施設でということだったが、食欲不振ということで入院、2週間でなくなった。最後まで見てあげたい気持ちはあったが、この2週間家族の最高の看病を受け幸せだったと思う。家族、病院と連絡を取り合い進めていきたい。	「急変時対応希望書」には具体的対応が書かれており、選択形式で本人・家族の意思が確認できる。終末期はこれまで3例の経験があり、職員・入居者が一緒に見送った。「普通の生活に連なる看取り」を実感した。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回以上消防署の協力で応急手当の講習会、救命救急講習会受講している。事故発生時には緊急カンファレンス開催、検証の機会を設けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域との防災協定を結んでおり災害時は相互に協力することになっていたがあまりの被害の大きさと施設を守ることで精一杯だった。とても残念だった。スプリンクラーは工事済み。	2回の避難訓練は午後7時45分から行なっている。訓練によって自動通報装置が作動していないことが分かったり、パニックを起こす入居者を把握し、対応を考えることができた。震災時はその教訓が活かされた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いは常に会議などで確認し気をつけるように徹底している。プライドを傷つけないようにさりげない対応に心がけている。	読書や花の手入れ、おやつを食べたり居室でテレビを見る等したいことを自由にできる。粗相をしても周囲に悟られない対応をしている。寝たきりにさせないことが重要要素と考え、自発的に行動できるように支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に寄り添い自分の思いが素直に言える関係づくりをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外出や入浴など、一人一人の思いに配慮し対応している。自由に暮らせるお手伝いをしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	地域の呉服屋さんに来てもらい自分の好みの服を選んで買ってもらう支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	3食、みんなで材料を切りそろえたり盛り付け片付け出来る仕事を分担し行ってもらっている。時には仕事を取り合う場面もある。	咀嚼が困難でも食事の楽しみを持続させるために、普通食の感覚で味わえるソフト食の利用やおにぎり食べる等工夫している。食事時は車椅子からダイニング椅子に移動する。季節の行事食、外食も楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人食べられる量や状態を把握、提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後の歯磨きの声がけ。能力に応じ介助している。うがいが出来ない方については歯磨きティッシュ使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用排泄パターンを把握している。トイレ誘導をしてなるべくトイレで排泄できるように支援している。	各居室にトイレがあり夜間の排泄も気兼ねなく容易にできる。オムツ交換もトイレで行なう。座位ができる入居者には、家事やアクティビティで積極的に刺激し、介護度が4から1に改善するという成果がみられた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘薬にだけ頼ることなくヨーグルト、センナ茶等それぞれに応じた対処法を考え実践している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を拒む利用者の方に対しては、声かけや対応を工夫をし、職員の連携で支援している。	朝から夜間まで好きな時間に入浴できる。気に入った職員としか入浴しなかった入居者が、職員の語り掛けを通じ、他の職員とも入浴ようになる等、人間関係の構築として捉え、対応する工夫がそこにある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	遅くまでテレビを見ている人、夜間入浴する人、なかなか寝付けない人、いろいろだがその人の状況に合わせている。定期的に寝具交換したり部屋の温度はエアコンで対応したり気持ちよく休んでもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方、効能などについては全職員で説明書で確認。飲み忘れや誤薬を防ぐために大きな声で、名前、日にちを読み上げ手渡ししている。薬の変更、臨時薬については申し送り徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	花が好きな利用者さんは部屋がお花畑になっているし、手芸の得意な人にはいつでも出来るように目の届くところに置いてあげている。季節ごとの行事を行い外出の機会を増やし気分転換できるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に沿って買い物に出掛けたり、季節ごとの外出は積極的に行っている。地域の運動会に出掛け多くの人たちに声をかけられ事が多くある。一年に一回は遠くまで小旅行にも出掛けている。	外出の希望にはいつでも対応している。家族から「出たがらないが上手に誘ってくれる」と感謝の声がある。松島水族館や津島神社の初詣、迫川の白鳥観察等、季節を楽しむ外出は年中行事になっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小旅行などのときはお土産を買ったり自由にお金を使うようにしている。また月に1回「駄菓子や」が開店するのでみんなの家通貨で買い物を楽しんでいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	母の日にはいつもお世話になっている娘さんやお嫁さんにメッセージカード送っている。とても喜んでもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内はモノトーンの落ち着いた配色でまとめ、派手にならない程度に装飾している。使い慣れた家具やどこか懐かしい調度品をおき落ち着いて生活してもらうようにしている。どこの場所も同じ温度で快適である。	ペンションのような雰囲気です。廊下は広く居室に名札は無い、重厚な無垢材の引き戸はホテルを思わせる。広いリビングに薪ストーブ、オープンキッチン、2間続きの和室があり昼寝もできる。所々にソファや椅子を置き、個の空間も確保している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを置いたり廊下にはベンチを置いたり休める空間を作っている。食事の際も気のあった人と過ごせるような配置にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	花を飾ったり孫の写真を飾ったり安心できるようにしている。	洗面とトイレが居室にある。クローゼットの下段に入居者が出し入れしやすい洋服掛けがある。窓辺に鉢植え、こたつの上に編みかけの毛糸、読みかけの新聞等、どの居室も生活感にあふれていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は一定温度に設定、バリアフリーで安全に過ごしてもらうようにしている。リビングも広く歩行器で移動するのに障害物がないように気配りしている。床の汚れがないように掃除の徹底を図っている。		